

北海道におけるブルーカーボンの取組について

北海道水産林務部水産振興課成長産業化戦略係

○ ブルーカーボンのポテンシャル

浅海生態系における二酸化炭素吸収量の全国推計土木学会論文集B2、vol.75 2019桑江氏ほか

森林	5,166万t-CO ₂ /年
農地土壌炭素	757万t-CO ₂ /年
都市緑化等	110万t-CO ₂ /年
海草・海藻藻場(平均値)	101万t-CO ₂ /年
(最大値)	373万t-CO ₂ /年
マングローブ(平均値)	18万t-CO ₂ /年
干潟(平均値)	12万t-CO ₂ /年

・上記推計値は、論文掲載時点のもの

・藻場の保全・育成等が進んだと仮定した2030年の吸収量は、

「海草・海藻藻場」：124～484万t-CO₂/年と試算

※参考:日本の森林面積2,500万ha ⇔ 藻場面積20万ha 干潟面積5万ha

環境省脱炭素化イノベーション研究調査室資料

○ ブルーカーボンのポテンシャル

環境省による藻場調査結果 (2018-2020年度)

	アマモ場 ha	スガモ場 ha	海草藻場 (アマモ+スガモ) ha	海藻藻場 ha	計 ha
北海道・日本海沿岸	380	640	1,020	9,340	10,360
北海道・太平洋沿岸	15,790	6,960	22,750	12,650	35,400
北海道 計	16,170	7,600	23,770	21,990	45,760
東北太平洋沿岸	160	40	200	4,760	4,960
中部太平洋沿岸	970	0	970	9,830	10,800
本州・北部日本海沿岸	3,190	120	3,310	14,980	18,290
本州・南部日本海沿岸	1,660	1,020	2,680	21,640	24,320
四国-九州沿岸	610	0	610	47,920	48,530
南西諸島沿岸	10,230	0	10,230	1,110	11,340
小笠原諸島沿岸	0	0	0	340	340
合計	32,990	8,780	41,770	122,570	164,340

- ・全国における北海道の海草・海藻藻場のシェアは、28%
- ・藻場面積や文献値をもとに、北海道の藻場による吸収量を案分すると、約26万t-CO₂
 ⇨北海道森林吸収源対策推進計画 2030年目標 850万t-CO₂

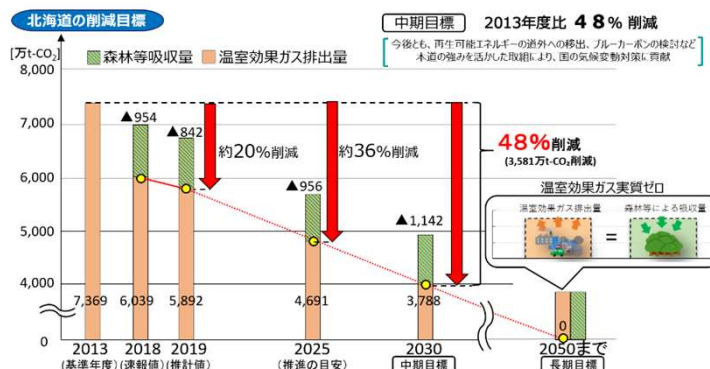
今後、国研) 水産研究・教育機構から、全国の藻場による吸収量が公表される予定

○北海道地球温暖化対策推進計画 (第3次) [改定版]

2030年度の削減目標 (中期目標)

国の「地球温暖化対策計画」に示されている対策・施策や削減目標を踏まえるとともに、道独自の取組なども勘案し、2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標 (中期目標) を次のとおりとします。

2013年度比で 48% (3,581万t-CO₂) 削減



○北海道地球温暖化対策推進計画（第3次） [改定版]

2030年度の削減目標（中期目標）

2013年度比**48%削減** ▲ 3,581万t-CO₂

削減 計2,439万t-CO₂

吸収 計1,142万t-CO₂

森林吸収源 850万t-CO₂

農地 276万t-CO₂

都市緑化 16万t-CO₂

○道内の主な動きについて

日本製鉄・増毛漁協によるクレジットの取得

- 日本製鉄と増毛漁協は共同で、道内初となる **Jブルークレジット**（※）の認証を今年11月に取得

※ 現在、**ブルーカーボン**は日本国の温室効果ガスインベントリの範囲外のため**J-クレジット制度の対象となっておらず**、国交省が認可した団体が「**Jブルークレジット制度**」を試行的に運営。

この他にも道内各地で、港湾区域内における藻場造成試験や、二酸化炭素吸収源としてのコンブ養殖など、ブルーカーボンの視点による新たな取組が行われている

北海道ブルーカーボン推進協議会設立

- R4.11 北海道ブルーカーボン推進協議会 設立（水産林務部）
- 構成員 ・（国研）水産研究・教育機構 ・（国研）海上・港湾・空港技術研究所
・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター ・道総研 中央水産試験場
・北海道漁業協同組合連合会 ・北海道栽培漁業振興公社 ・国土交通省北海道開発局
（オブザーバー） ・北海州市長会 ・北海道町村会 など （赤字は国のプロジェクト研究参加機関）
- 道内での吸収量の把握や、各地の取組の活性化にむけた検討を行い
ゼロカーボン北海道の実現に向け、より環境と調和した水産施策を展開

振興局における協議会設立

- R4.9 釧路管内ブルーカーボン推進検討協議会 設立（釧路総合振興局）
- R4.11 留萌管内ブルーカーボン推進検討協議会 設立（留萌振興局）

【新規】北海道ブルーカーボン推進事業費

【目的】

ブルーカーボンの取組を推進するため、CO2 吸収量の算定等を行い、カーボンクレジットの取得を促すとともに、認知度向上に向けた普及啓発を行う。

【現状】

〇道はこれまでも国の事業を活用し、藻場の造成や漁業者等が取り組む保全活動への支援等を実施。



〇国内におけるブルーカーボンに関する動き

	国内の状況
吸収量	ブルーカーボンによる CO2 吸収量については、国の研究機関等が藻場タイプ別の吸収係数評価モデルの開発と国内における吸収量の評価等を推進
クレジット	ブルーカーボンのクレジットは、国土交通省が認可した団体（JBE）が、「Jブルークレジット」として試行的に運用

※JBE(ジャパンプルーエコノミー技術研究組合)：Jブルークレジットの認証、発行、売買等を実施

【事業内容】

海藻等による CO2 吸収量の算定を行い、クレジットを活用した保全活動等の実証や普及啓発を行う。

区分	内容
クレジット取得促進	〇クレジット取得に係るガイドラインの作成【委託】 ・雑海藻駆除や海藻養殖によるモデル事業の実施
普及啓発	〇ブルーカーボンの認知度向上に係る情報発信

【予算額】

予算額（千円）		国	道	その他	開始年度	担当課・係
R5年度 (委託費等)	10,732	0	10,732	0	R5年度	水産振興課 成長産業化戦略係

【特定財源】基金繰入金(温暖化防止対策基金、ふるさと寄附)